

## ◆住まいづくりの無料相談会◆

毎月第4土曜日の13時～16時、鶴屋デパート本館5階  
インテリアカウンターにて無料相談会を開催しております。

**みなさんも相談員として登録してみませんか！**

＜対応して下さった相談員の皆さん＞

1月 西島真理子さん、若松恵子さん

2月 田中弘子さん、倉富華菜さん

3月 橋詰美香さん、村上希理子さん、盛高麻衣子さん

ありがとうございました。



## 【お知らせ】無料相談会の相談員に登録しませんか

以前にもお知らせしたように、無料相談会の告知活動が功を奏し、来訪者が増えており、現状の毎月2名の相談員では対応しきれない状況が発生していて、応援要員も必要です。もちろん経験者とタッグを組みますので初めての方でも安心してご参加ください。

TEL 096-383-3200 メール: LEB03540@nifty.com

## ◆ユイファ・ジャポンのみなさんに無料相談会のご協力を頂きました◆

3月23日(金)・24日(土)、UIFA Japon(女性建築家会議)から5名の方がご来熊されました。今回の視察には、鶴屋で開催している無料相談会の参加が含まれており、実際にご対応いただきました。

24日には6組の相談者が来られ、またそれぞれのご相談時間が長くなり、特設したのも併せた3つのブースは大盛況でした。

相談会前日の23日は、熊本の女性部会のメンバーで西原村の五木源住宅モデル、南阿蘇の木造仮設団地、甲佐古民家改修現場をご案内しました。

その夜の交流会は時を忘れるほどの盛り上がりでした。

ご案内にご協力頂いた阿蘇支部の光原さん  
五木源住宅復興支援チームの皆様に深く感謝申し上げます。



## 【告知】平成30年度 (公社) 熊本県建築士会女性部会総会を開催します

平成30年5月13日(日) 13時より

熊本県建築士会 地下会議室にて総会を開催します。

同時開催のセミナーは、熊本市で耐震診断を担当している西田氏に、耐震化の現状についてお話しをして頂きます。また、茶話会で、皆様が取組んでいることについて是非ご紹介ください。

途中参加、途中退出、お子さん連れの参加も、もちろんOKです♪



わたしたちは「いつでも、誰でも、気軽に」をモットーに、全員が参加できる部会活動を目指しています。女性部会の最新情報はfacebookで随時更新中！

【熊本建築士会女性部会】で検索♪

女性部会 FB の QR コードはこちら👉



## 熊本地震を経験して ～地震発生から少したった頃～

平成28年4月14日に前震、16日には本震と2度の大きな地震に見舞われた熊本地震から2年が経ちました。あの時、私たち女性建築士がどのように感じ行動したのか、記録の第4弾です。

### ◆ 地震あとのメモより

今回の地震では緊急地震速報が全く役に立たず(暗闇の中で携帯電話の位置がわかったこと、地震発生時刻を確認できたことは良かったのかもしれない)警報音が鳴ったときにはもう揺れだしており、テーブルの下に避難できるような時間的余裕がなかった。

前震の直後から度重なる余震がはじまっていたので、冷蔵庫や食器棚の扉にはガムテープを貼り、前震のときに落ちたもの倒れたものはそのまま床に直置きしておいたおかげで本震時の被害が最小限に抑えられたと思う。

実家では物の多さが災いしてほとんどの物が床に散乱し、破損している物も多く片付けが大変だった。

日が経つにつれ、町中が大量の震災ゴミで埋め尽くされてゆく様を目にし、普段からできるだけ物を持たない生活を心がけることの大切さを実感した。

避難先の実家はRC造のマンションだったので安心感はあるものの、断水と都市ガスの遮断により生活に多くの支障をきたしていた。

自宅ではプロパンガス、電気の復旧後からは井戸水や天日が使えたので、洗濯とお風呂を友人たちにも提供させてもらった。

けれど震度6の衝撃を二度も受けた築30年以上たつ木造住宅が、大きな余震の続中で安全とは思えず、洗濯が終わるのさえ車の中で待つような状況だった。

地震後、自宅と実家を何度も往来することになるのだが、通行止めや緊急工事の影響で渋滞することが多くなり、普段なら40分で行けるような場所まで2時間半かかったこともあり、だんだんと移動が容易でなくなってくる。

東日本大震災から5年後に起こった熊本地震。少しずつ購入していたアルファ米がまさか、役に立つ日がきてしまうとは思ってもいなかった。

アルファ米はちょうど賞味期限を迎えるところだったのだが、先行きが見えない生活が続く中で災害用の食品や物品などを使いきってしまうことに不安を感じてしまった。

緊急時こそ潔くレトルト食品と使い捨て食器を使えばよかったと思う。

一番時間がかかったのは子供の心のケアだった。それも先生方のサポートをはじめ、毎朝泣きながら登園していた時にも優しく声をかけてくださったご近所さんのおかげもあり、少しずつ立ち直ることができた。

こうして周りに助けられたことに心から感謝している。

最後に、携帯にメモしている内容を書いておく。  
「大きな地震がきたらまず家具から離れる  
ヘルメットとスリッパ装着、揺れがおさまったら玄関ドアを開ける、浴槽とコック付き水用ポリタンクに水を溜めながら、リュックに携帯電話・充電器・眼鏡・常備薬・財布・現金・通帳・母子手帳・電池・ラジオ・ウェットティッシュ・薄手のタオル・生理用品・櫛と髪留め・リップクリーム  
クーラーボックスに飲み物、パン、お菓子  
全員トイレを済ませ、溜めていた水を止め、ブレーカーを落とし、鍵をかけて、車で避難」



白浜 美奈子

女性部会 副部長  
川尻六工匠 古川設計室

※ 女性部会では熊本地震の体験やその後の活動を書いてくださる方を募集しています。

(公社)熊本県建築士会事務局までご連絡ください。

TEL 096-383-3200

Mail LEB03540@nifty.com